



〒276-0033

千葉県八千代市八千代台南1-3-5 YYビル1階

電話番号：047-409-5842(変更ありません)

FAX 番号：047-409-5843(変更ありません)

移転先

活動報告



たかゆき 小林鷹之からの手紙

農業×物流

絆を力に。2015年 vol.28 「討議資料」
衆議院議員

自民党千葉二区支部小林鷹之事務所発行
(千葉市花見川区・習志野市・八千代市)

第4回 小林鷹之後援会「飛鷹会」朝食勉強会

ゼロからの開発 ～我流イノベーション論～

講師：エーザイ株式会社 代表執行役CEO
内藤 晴夫氏

日時：平成27年12月10日(木)

受付・朝食：午前7時30分～

講演：午前8時～9時

場所：ホテルニューオータニ ザ・メイン 芙蓉中の間
東京都千代田区紀尾井町4-1



参加ご希望の方は右記の国会事務所までご連絡下さい。

小林鷹之事務所では、定期的に「小林鷹之後援会「飛鷹会」朝食勉強会」を開催しています。

小林鷹之



Profile

東京大学法学部卒業。ハーバード大学行政大学院修了。財務省課長補佐、外交官を経て現在衆議院議員2期目。予算・外務・東日本大震災復興の各委員会委員、自民党外交部会部会長代理、青年局次長他、各種事務局を務める。一女の父。

地元事務所 〒276-0033 千葉県八千代市八千代台南1-3-5 YYビル1階
TEL 047-409-5842 FAX 047-409-5843
国会事務所 〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館417号室
TEL 03-3508-7617 FAX 03-3508-3997



「これからの政治に求められるのは『不利益の分配』である」。

先日、ある新聞で目に留まった言葉です。

右肩上がりに経済が成長した時代には、政治の主な役割は、利益（非税収）の分配でした。人口減少や超高齢化に伴い、社会保障そして財政の負担が増えてきます。特に、将来世代への過度な負担の先送りを防ぐには、その負担を世代間で公平に分担しなければなりませんから、冒頭の言葉に違和感はありません。しかし、負担、負担、負担のオンパレードでは夢も希望もありません。

課題山積な世の中であるのは事実ですが、**課題の存在こそが成長の原動力**です。やはり、**課題を克服し、成長し、豊かな社会を作っていくことが基本**だと思います。

例えば、大筋合意されたTPP（環太平洋経済連携協定）については、政府・与党では、特に農業対策を中心に議論がなされ、先日TPP対策の大綱を策定しました。

私の地元にも米、野菜、果実、生乳等を生産されている多くの農家の方々がいらっしゃいます。お立場やご意見は様々ですが、**地域農業の将来に向けた課題として共通しているのは後継者不足**です。これは、農業だけでなく林業・水産業の一次産業、さらには中小・零細の製造業や建設業等広範な業種の共通課題です。

特に、**農業**については我が国の「**食料安全保障**」という観点からも非常に大きな課題です。

食糧自給率が39%と4割を切る中で、いかなる時にも国民を飢えさせない、これが政治の基本です。

だからこそ、我が国の農業を、完全な自由競争の場へ持ち込むべきとは思わないし、**国が一定の補助、それも生産性を上げるための補助**をしていくこと、また、**農業の新たな可能性を模索し、若者が就農しやすい環境を作っていく**ことも政治が果たすべき役割です。

人口減少、高齢化により農業の担い手が減少していく、だから農家や、農業を保護するだけの政策に偏るのではなく、**どうやって我が国の農業市場を維持・拡大し、食料安全保障を確保するか。それは、農産物やそれらの加工品の輸出である**と思います。農産物の輸出により、農業生産量が増え、同時に農地が維持される。さらに就農人口も増える。食糧危機が生じた場合には輸出に回していた農産物を国内消費に置き換える。**農産物の輸出こそが我が国の食料安全保障を確保できる手段**だと私は考えます。

その観点から、私の地元千葉県の宝の一つは、成田空港です。圏央道もほぼ開通の中で、千葉県のみならず、茨城や栃木エリアからのアクセスが大幅に改善しました。ご存知の通り、茨城と千葉は北海道に次ぐ、日本で2位、3位の農業産出額を誇る農業県です。千葉や茨城の新鮮で、安全で、何より美味しい農産物をはじめ、その加工品を成田空港からもつと海外へ輸出できる環境整備が必要です。成田空港の昨年の国際航空貨物取扱量は204万トン、うち輸出は59万トン。金額ベースで81兆円。これは韓国の仁川空港等と比べると非常に

物足りない数字です。しかも食料品に至っては未だ2%以下です。

特に食料品については、東アジア向け国際物流のハブとして民間主導で構築された、沖縄の那覇空港に国内から集積され、収穫の翌日には香港の市場や食卓に届く仕組みになっています。これは、「**沖縄貨物ハブ**」が24時間稼働であること、**通関手続きや検疫が短時間**であることが要因です。成田空港からEUや中東諸国への農産物輸出拡大を目指し、成田市にある公設市場においても「**輸出手続きのワンストップ化**」の試験的運用が開始されます。

私はアジアも含めて欧米・中東・アフリカ等への国際貨物物流を成田空港で構築していきたい。そのためには、夜間の貨物便も視野に入れていく必要があるでしょう。また、それを実現するためには民間の力もお借りして、例えば、既に羽田空港に導入されている「クロノゲート」と呼ばれる24時間365日ノンストップの物流革命の拠点と同様の施設を、成田にも導入する必要がありますと考えています。県内の交通アクセスについてもまだまだ改善の余地があります。そして、物流の改善は、農業だけではなく、日本経済の屋台骨を支える多くの中小企業にとっても裨益するはず

です。
農業にしても物流にしても超えるハードルは低くはありませんが、可能性を信じて前向きに挑戦していく日本でありたいと思いますし、そのために政治の立場から汗をかいてまいります。

平成二十七年十二月吉日

衆議院議員 小林鷹之